

平成 30 年 9 月 13 日

各 位

公益社団法人日本技術士会 北海道本部
本部長 森 隆広

第 21 回北東 3 地域本部技術士交流研修会の開催について

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、日本技術士会東北本部、北陸本部、北海道本部の 3 地域本部（北東 3 地域本部）では、地域の自然、文化、産業構造が類似している地域に在住する技術士が、地縁技術の掘り起こしとそれらの情報交換を行い、北東地域の発展に寄与することを目的として平成 10 年度から標記研修会を各地域本部持ち回りで開催しております。

つきましては、今年で 21 回目を迎えます「北東 3 地域本部技術士交流研修会」（CPD 対象）を下記のとおり開催致しますので、ご参加下さいますようお願い申し上げます。

敬 具

－ 記 －

テーマ：「変わりゆく地球環境と技術士の取り組み」

1988 年、人為起源による気候変化、影響、適応及び緩和方策に関し、科学的、技術的、社会経済学的な見地から包括的な評価を行うことを目的に「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」が設立されてから 30 年が経過しようとしています。これまで 5 次にわたる評価報告書が公開され、最新の第 5 次評価報告書では、近年観測された極端な気象現象の変化を世界規模で評価した一例として、21 世紀初頭（2016～2035 年）には多くの陸域において、大雨の頻度や強度、さらに降水量自体が増加する可能性が高いと予測されています。また、近年の人為起源の温室効果ガスの排出量は史上最高とされ、その多くはエネルギー起源であり非化石エネルギーの導入促進が行なわれています。

その一方で、気候変動の影響により北極海における海氷面積が減少し、北極海経由で欧州とアジアを結ぶ新たな国際流通の航路が供用される可能性が高まり、北陸～東北～北海道を拠点とする物流ネットワークの形成が期待されています。

今回は、持続可能な社会を目指し、変わりゆく地球環境に適応して、我々技術士が取り組んでいること・取り組むべきこと、について考えてみたいと思います。

・日 時：平成 30 年 10 月 10 日（水） 研修会 14：00～17：30
交流会 17：45～19：20

・場 所：ホテル札幌ガーデンパレス 2 階
札幌市中央区北 1 条西 6 丁目 Tel 011-261-5311(代表)
<http://www.hotelgp-sapporo.com/>

・主な参加者：北東 3 地域本部会員（北陸本部、東北本部、北海道本部）

・参加費：研修会 会員；1,000 円、会友；1,500 円、非会員；2,000 円
交流会 3,000 円（同ホテル 2 階 孔雀）
※当日会場にて申し受けます。

・参加申込：参加申込書を参照の上、10 月 2 日（火）までに事務局までお申し込みください。

・申込先：〒004-8585 札幌市厚別区厚別中央 1 条 5 丁目 4-1 Docon 新札幌ビル内
公益社団法人日本技術士会 北海道本部 事務局（岸本、長谷川）
Tel：011-801-1617 FAX：011-801-1618
E-mail：uketsuke@ipej-hokkaido.jp

第 21 回 北東 3 地域本部技術士交流研修会
参 加 申 込 書

メールまたは FAX にて必要事項 ①氏名（ふりがな） ②所属（会社名） ③ご連絡先（電話番号 & E メールアドレス） ④研修会・交流会の出欠 ⑤会員区分 ⑥技術士部門を記入のうえ、事務局までお申し込みください。

※準備の都合もございますので、10月2日（火）までに連絡願います。

公益社団法人日本技術士会北海道本部 事務局
E メールアドレス : uketsuke@ipej-hokkaido.jp
F A X 番号 : 011-801-1618

発信者
会社名 _____
氏 名 _____
E-mail _____
T e l _____

第 21 回北東 3 地域本部技術士交流研修会 参加申込

ふりがな 氏 名	所属（会社名）	連絡先 （電話番号） （E メールアドレス）	研修会 出欠	交流会 出欠	会員区分 （会員） （会友） （非会員）	技術士 部門

※いただいた個人情報は以下の目的に利用します。

- ・北東 3 地域本部技術士交流研修会に関する参加登録
- ・講演会、セミナー、その他イベントに関する案内、回答
- ・参加登録された情報に関する確認、連絡、問い合わせ、回答
- ・技術士、技術士制度、日本技術士会に関する案内、回答

ホテル札幌ガーデンパレスへのアクセス

<http://www.hotelgp-sapporo.com/>

→ 別紙【ホテル札幌ガーデンパレス・アクセス&マップ】参照

アクセス&マップ

ホテル札幌ガーデンパレス

〒060-0001 札幌市中央区北1条西6丁目 TEL 011-261-5311 FAX 011-251-2938



JR	新千歳空港駅から快速エアポート37分(15分毎運行 料金1,070円) 札幌駅南口から徒歩7分
車	札幌自動車道札幌北ICから10km
地下鉄	① さっぽろ駅南北線 ⑩ 番出口より徒歩5分 ② 大通駅東西線 ① 番出口から徒歩5分
札幌駅前通地下歩行空間 (通行時間 5:45~24:30)	① ⑥ 番出口 又は ⑧ 番出口より徒歩3分 ② おすすめ 北一条地下駐車場連絡通路 ① 番出口徒歩2分
空港連絡バス	新千歳空港バス乗場から乗車80分(料金1,030円) 札幌グランドホテル下車 徒歩3分
駐車場	札幌ガーデンパレスでは72台収容の駐車場(西側入口)を地下にご用意しております。 満車の場合や車種によっては野外駐車になる場合がございます。 ご予約制ではございませんがご宿泊の方はお帰りができます様配慮してまいりますので安心してご利用いただけます。

第21回 北東3地域本部技術士交流研修会 プログラム

テーマ：「変わりゆく地球環境と技術士の取り組み」

会場：2階 丹頂

司会：菅藤 学（北海道本部）

- 14:00～14:15 開会挨拶 北海道地域本部長 森 隆広
地域本部長挨拶 東北地域本部長 吉川 謙造
北陸地域本部長 大谷 政敬
- 14:15～14:20 来賓祝辞 公益社団法人日本技術士会 会長 高木 茂知 氏

【基調講演】

- 14:20～15:10 氷海に出現した海の道（北極海航路）と日本
北海道大学 北極域研究センター 教授 大塚 夏彦 氏

【研修発表】

- 15:10～15:30 省エネは北海道、再エネは福島に学ぼう！
福島大学 赤井 仁志
（東北本部/衛生工学・総合技術監理部門）
- 15:30～15:50 再生可能エネルギーに係る環境アセスメントの動向
田中菜摘技術士事務所 田中 菜摘
（東北本部/建設・総合技術監理部門）
- 15:50～16:05 《 休 憩 》
- 16:05～16:25 ストップ温暖化！エコアクション21の活用
シゲル環境技術士事務所 佐藤 滋
（北陸本部/環境部門）
- 16:25～16:45 今、一人の森林技術士が立ち上がりました
広田技術士事務所 広田 史子
（北陸本部/森林部門）
- 16:45～17:05 人口構造が変化する北海道での自然エネルギーの活用について
伊藤組土建株式会社 滝澤 嘉史
（北海道本部/建設・総合技術監理部門）

- 17:05～17:25 質疑応答

- 17:25～17:30 閉会挨拶 北海道本部 副本部長 大熊 正信

■交流会

- 17:45～19:20 交流会（2階 孔雀）

（※上記の内容は、都合により一部変更になることがありますので予めご了承下さい。）

■ 発表概要

テーマ：「変わりゆく地球環境と技術士の取り組み」

1988年、人為起源による気候変化、影響、適応及び緩和方策に関し、科学的、技術的、社会経済学的な見地から包括的な評価を行うことを目的に「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」が設立されてから30年が経過しようとしています。これまで5次にわたる評価報告書が公開され、最新の第5次評価報告書では、近年観測された極端な気象現象の変化を世界規模で評価した一例として、21世紀初頭（2016～2035年）には多くの陸域において、大雨の頻度や強度、さらに降水量自体が増加する可能性が高いと予測されています。また、近年の人為起源の温室効果ガスの排出量は史上最高とされ、その多くはエネルギー起源であり非化石エネルギーの導入促進が行なわれています。

その一方では、気候変動の影響により北極海における海氷面積が減少し、北極海経由で欧州とアジアを結ぶ新たな国際流通の航路が供用される可能性が高まり、北陸～東北～北海道を拠点とする物流ネットワークの形成が期待されています。

今回は、持続可能な社会を目指し、変わりゆく地球環境に適応して、我々技術士が取り組んでいること・取り組むべきこと、について考えてみたいと思います。

1. 省エネは北海道、再エネは福島に学ぼう！

福島大学 共生システム理工学類 特任教授 赤井 仁志（あかい ひとし）
（東北本部：衛生工学・総合技術監理部門）

地球環境の保全や化石燃料の削減には、省エネと再エネ利用が重要である。日本でエネルギーの1/3を消費している民生部門（家庭・業務）は、給湯や暖冷房での省エネルギーが大切である。北海道は、建築の断熱性・気密性の向上や適切な設備システム導入により、快適な居住空間を生みだし、エネルギー削減が進んでいる。2040年までに再生可能エネルギー100%を目指す福島県は、ハードとソフトの両面で、先進的な取り組みを行っている。

2. 再生可能エネルギーに係る環境アセスメントの動向

田中菜摘技術士事務所 田中 菜摘（たなか なつみ）
（東北本部：建設・総合技術監理部門）

再生可能エネルギーの利用が推進され、風力発電等の事業計画が急増している。一定規模以上の風力発電事業は環境アセスメント手続きが必要となるが、一部に地域環境の保全が十分に考慮されていない事例、関係者間の調整が十分でなく事業が円滑に進まない事例がみられる。このような問題を踏まえた再生可能エネルギーの推進に係る環境アセスメント制度の新しい取組み動向や、地域コミュニケーションの事例について紹介する。

3. ストップ温暖化！エコアクション 21 の活用

シゲル環境技術士事務所 佐藤 滋（さとう しげる）
（北陸本部：環境部門）

私はエコアクション 21 の審査員として活動している。パリ協定や地球温暖化対策等を受けて中小事業者はサプライチェーン及びライフサイクルを通して環境への取組み、CO2 排出量の把握と削減、並びに環境配慮型の事業者や商品・サービスが評価される仕組みを説明し、エコアクション 21 の普及と事業者が環境経営の実効性を高めることを推進している。

4. 今、一人の森林技術士が立ち上がりました

広田技術士事務所 広田 史子（ひろた ふみこ）
（北陸本部：森林部門）

変わりゆく地球環境において、温暖化の原因ともされる大気中の CO2 濃度の増加は、誰もが知る大きな問題である。その対策として、森林の CO2 の吸収・固定能力にも期待が寄せられているが、一方、それらを進める我が国の森林管理の現場は、山村の疲弊や国際経済の競争の中で弱体化してしまったことも否めない。産業としての林業・木材産業を支えながら森林の持つ地球温暖化の抑止効果を発揮させていくにはどのような技術が有効なのか、一人の開業技術士として何ができるのかを述べたい。

5. 人口構造が変化する北海道での自然エネルギーの活用について

伊藤組土建株式会社 土木部 滝澤 嘉史（たきざわ よしふみ）
（北海道本部：建設・総合技術監理部門）

人口減少・高齢化が急速に進む北海道で、太陽光、水力、風力、バイオマス等の自然エネルギーが豊富に存在する地域特性を活かし、エネルギーを地産地消して地域を豊かにすることが非常に重要と考える。本論は、北海道の自然エネルギーポテンシャルを説明し、木質バイオマスの活用事例、自然エネルギーを蓄える大型畜電システムの実証事業や水素社会を実現するための実証試験等の事例を紹介して水素利用について考える。